

オセアニア州の指導にあたって ～他地域との結びつきを主題に

● 『学習指導要領解説』の抜粋

世界の諸地域について、次の①～⑥の州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究・解決するなどの活動を行う。州ごとに設ける主題は、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象とし、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

- ①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ
④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア

VI. オセアニア州：＜主題例＞多文化社会、貿易に関わる課題などオセアニア州を大観する学習を踏まえて、例えば、オーストラリアを対象に「オーストラリアでは、民族構成がどのように変化してきたのか」、「なぜオーストラリアでは、アジア諸国との貿易割合が増えているのか」といった問いを立て、前者の場合、先住民との関係、建国の歴史、貿易相手国や移民出身国の変化などを地域の人々の生活と関連付けて多面的・多角的に考察して、多文化社会に関わる一般的課題とオーストラリアにおける地域特有の課題とを捉える。

● 指導上の留意点

オセアニア州は太平洋全体の半分にもおよぶ、きわめて広大な地域である。ここでは、「他地域との結びつき」に着目しながら、自然環境、先住民の文化などの面から多様性をとらえる一方で、歴史的につながりの深かった欧米諸国から、日本を含むアジア諸国とのつながりを深めようとする共通性を学習していく。

「あらまし」では、オセアニア州の地域区分と自然環境の違いに着目させたい。地図帳や写真資料を読み取ることを通じて、それぞれの地域の特徴をおおまかにとらえさせたい。それに続く「産業と他地域との結びつき」では、オーストラリアの産業・貿易相手先の変遷と先住民の暮らしについて、「歴史からみた他地域との結びつき」では、他地域との結びつきについて歴史的にとらえさせたい。また、第3編の系統地理的部分（第2章）の「資源・エネルギー」の学習や、日本地誌（第3章）・北海道地方における、日本のスキーシーズンに来訪するオーストラリアからの観光客がみられる話題などを取り上げながら、日本との関係性の面から興味・関心を高め、学習を深めていきたい。

● ワークシートの単元構成 <想定する時間数：全体で4時間>

時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ	
主題 … 他地域との 結びつき	1	オセアニア州をながめて	オセアニアの位置と広がり 地域区分、主な国々の名称と位置	オーストラリア大陸 ミクロネシア、ポリネシア、メラネシア	p.38
	2	オセアニア州の産業と 他地域との結びつき	先住民の歴史 鉱産資源と貿易	先住民、移民、鉱産資源、貿易	p.39
	3	オーストラリアの歴史と 他地域との結びつき	白豪主義から多文化主義へ 日本との結びつき	白豪主義、多文化主義、観光	p.40
	4	オセアニア州のまとめ	大きくとらえたオセアニア 他地域との結びつきからみたオセアニア	白地図上に主な地名や語句を整理する 追究したテーマについて文章でまとめる	p.41

オセアニア州 ①

オセアニア州を ながめて

●学習のねらい●

地図帳を使って、オセアニア州の広がりや地域区分、国名や島の名前などを調べてみよう。

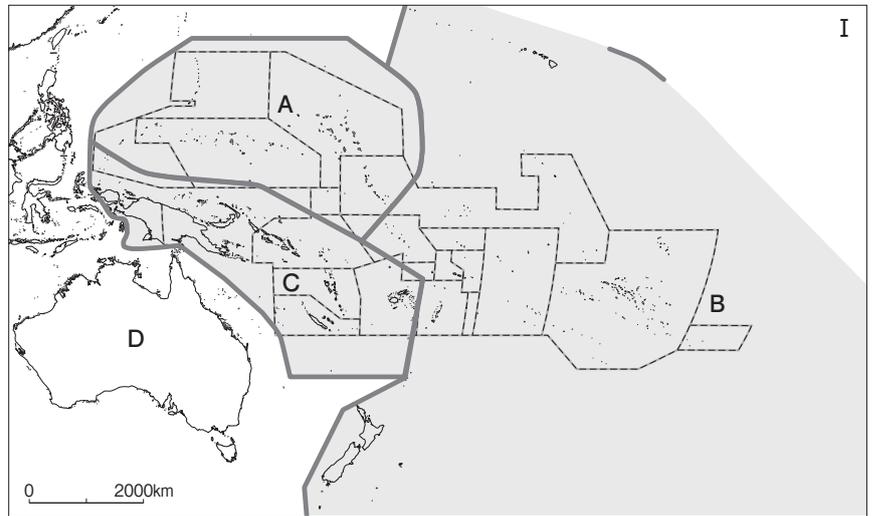
オセアニア州は、赤道と日付変更線^{へんこう}の交差する地域に広がり、太平洋とオーストラリア大陸、パプアニューギニア、ニュージーランドとその他の島々からなる地域です。オーストラリア、パプアニューギニア、ニュージーランドをのぞけば、そのほとんどがさんご礁^{しょう}や火山島からなる、小さな島々です。オセアニア州は、日付変更線の東側でニュージーランドを含むポリネシア、日付変更線の西側で赤道の北側に広がるミクロネシア、赤道の南側に広がるメラネシアおよびオーストラリア大陸に分けられます。地図帳を用いて調べてみると、ミクロネシアの北ど

なりは日本であることがわかります。

オセアニア州にはオーストラリア大陸、たくさんの島々が点在する太平洋と、豊かな自然が広がっています。気候については、ニューギニア島や赤道付近の島々は熱帯、オーストラリア大陸の大部分は乾燥帯^{かんそう}、そして大陸東部からニュージーランドは温帯となっています。オセアニア州に暮らす人々は、先住民のほか、新しい土地を求めて移住してきたヨーロッパの人々などさまざま、多種多様な文化が発展しました。また、オーストラリア大陸を中心に、豊富な鉱産資源^{めく}に恵まれた地域です。

課題 1 右の地図ⅠのA～Dにあてはまる地域名を記入しよう。

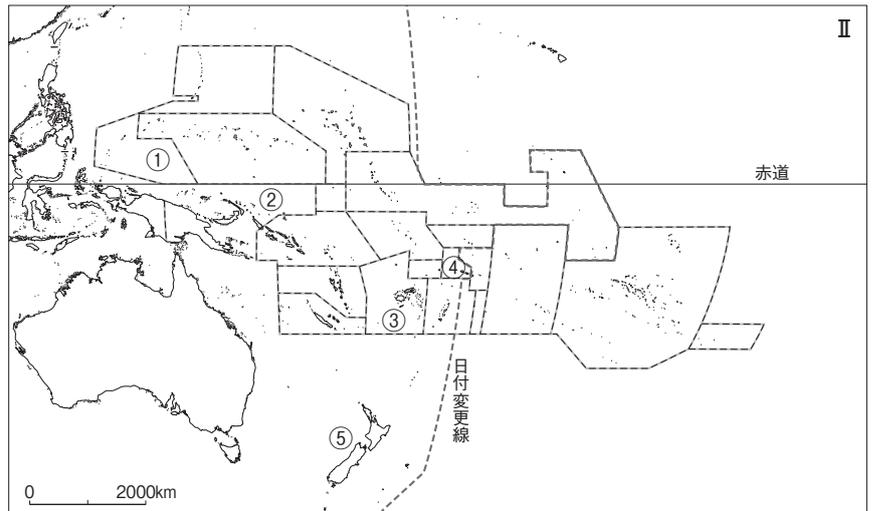
A	
B	
C	
D	大陸



課題 2 右の地図Ⅱで、赤道を赤、日付変更線を青でなぞってみよう。

課題 3 右の地図Ⅱの①～⑤の国名を記入してみよう。

①	
②	
③	
④	
⑤	



課題 4 地図帳や教科書を使って、知っている島を見つけ、名前を書き出してみよう。

オセアニア州 ②

オセアニア州の産業と他地域との結びつき

●学習のねらい●

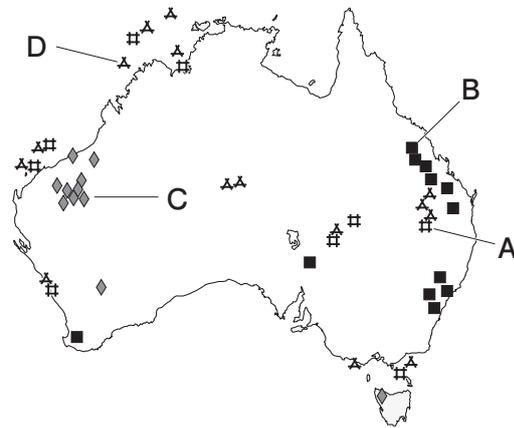
オセアニア州に属するオーストラリアの豊富な資源と貿易、歴史などについてみてみよう。

オーストラリアを例にオセアニア州の歴史と先住民について見ていきましょう。オーストラリアには、もともと先住民であるアボリジニ（アボリジナル・ピープル）の人々が狩猟や採集により生活していました。18世紀末から、オセアニア州にイギリスからの移民が多数入植し、それ以降、各地からやってきた移民やその子孫たちによって開拓が進められていきました。先住民は移民に土地を奪われたり、持ち込まれた病気に感染したりするなどして、20世紀の初めごろには人口が減少してしまいました。奪われた土地は牧畜業に利用され、先住民を白人に同化させる政策が進められましたが、現在で

は先住民の文化の保護、土地に関する権利も認められるようになってきました。

産業面からオーストラリアを見ていきましょう。オーストラリア大陸は、石炭、鉄鉱石など鉱産資源に恵まれ、それらは日本をはじめ、アジアなどの国々に向けた重要な輸出品になっています。また、農業では広大な土地を利用した、牛・羊の牧畜業や小麦生産などが盛んです。かつて移民たちは、生産された羊毛や肉類はイギリスなどのヨーロッパ諸国に輸出していましたが、現在はアジアがその主な輸出先となっています。特にニュージーランドは、飼育される羊の数が人口よりも多い国としても知られています。

課題 1 右の図は、オーストラリアで採掘される鉱産資源を示しています。図中の記号A～Dはそれぞれ何か、答えよう。



A	
B	
C	
D	

課題 2 右の表は、日本とオーストラリアとの主な貿易品目（2019年）を示しています。輸出品と輸入品を比べたとき、どのような特色が読み取れるか、下にまとめよう。

オーストラリアへの輸出品

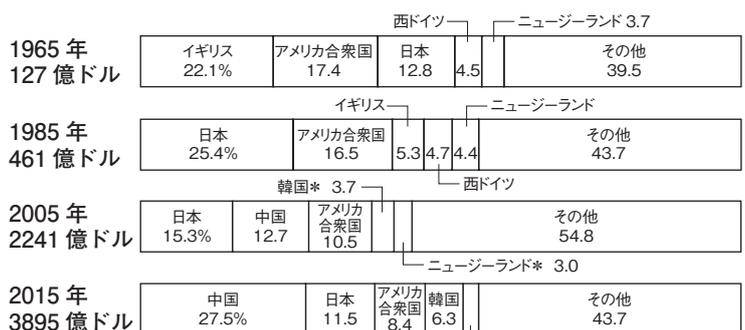
品目	%
自動車	44.6
石油製品	21.0
機械類	13.3
タイヤ・チューブ	3.6
自動車部品	2.1

オーストラリアからの輸入品

品目	%
液化天然ガス	35.4
石炭	30.0
鉄鉱石	12.4
肉類	4.5
銅鉱	3.5

(2019年『日本国勢図会 2020/21』より)

課題 3 右のグラフは、オーストラリアの貿易相手国の変化を示しています。どのようなことが読み取れるか、下にまとめよう。



*: 輸出額のみ, **: 輸入額のみ

タイ** 2.6 『貿易統計年鑑』より

オセアニア州 ③

オーストラリアの歴史と他地域の結びつき

●学習のねらい●

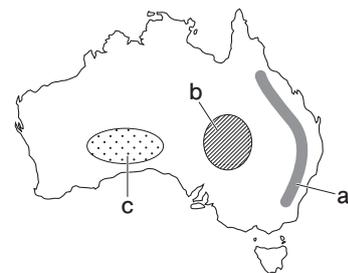
オーストラリアの歴史を学びながら、多文化社会を目指すようになった理由を考えてみよう。

オーストラリアでは18世紀の終わりで降、イギリスからの移民が多数入植して開拓が進み、広大な土地を利用した牧畜業や農業が発展しました。19世紀中ごろには金が発見され、ゴールドラッシュがもたらされました。この時期、金鉱で働く労働者として中国からの移民、さとうきび畑の労働者としてメラネシアの人々、真珠を採取するためにやってきた日本人など、アジア系の労働者が増え、イギリスからの移民との間で対立が深まりました。そこで、オーストラリア政府は20世紀に入ると、白人以外の移民をしめ出す白豪主義政策をとるようになりました。しかし、第二次世界大戦後、経済の発展を図るため、英語圏以外のヨーロッパ人や西アジアなどアジアから、労働力として多くの移民を受け入れるようになり、1970年代には白豪主義政策は廃止されました。現在では、こうしたさまざまな地域からの、異なる言葉や文化をもつ移民が暮らすうえで不利にならずに共存できる社会をつくらうとする多文化主義が国の方針となりました。また、第二次世界大戦後は貿易相手国も、イギリスなどのヨーロッパ諸国から、アメリカ合衆国やインド、中国、日本などのアジアの国々に変化してきています。また、オセアニア州の中でもオーストラリアは、日本からの海外旅行先として多くの観光客が訪れる地域となっています。ウルルやグレートバリアリーフなどの豊かな自然や留学先としてもオーストラリアの人気は高まっています。

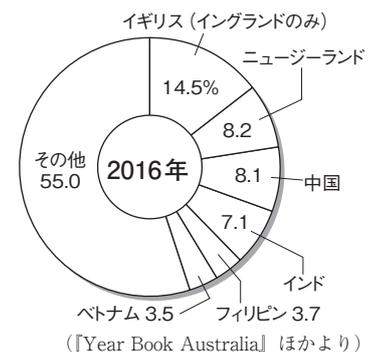
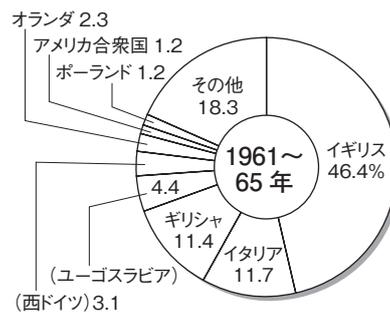
オーストラリアでは18世紀の終わりで降、イギリスからの移民が多数入植して開拓が進み、広大な土地を利用した牧畜業や農業が発展しました。19世紀中ごろには金が発見され、ゴールドラッシュがもたらされました。この時期、金鉱で働く労働者として中国からの移民、さとうきび畑の労働者としてメラネシアの人々、真珠を採取するためにやってきた日本人など、アジア系の労働者が増え、イギリスからの移民との間で対立が深まりました。そこで、オーストラリア政府は20世紀に入ると、白人以外の移民をしめ出す白豪主義政策をとるようになりました。しかし、第二次世界大戦後、経済の発展を図るため、英語圏以外のヨーロッパ人や西アジアなどアジアから、労働力として多くの移民を受け入れるようになり、1970年代には白豪主義政策は廃止されました。現在では、こうしたさまざまな地域からの、異なる言葉や文化をもつ移民が暮らすうえで不利にならずに共存できる社会をつくらうとする多文化主義が国の方針となりました。また、第二次世界大戦後は貿易相手国も、イギリスなどのヨーロッパ諸国から、アメリカ合衆国やインド、中国、日本などのアジアの国々に変化してきています。また、オセアニア州の中でもオーストラリアは、日本からの海外旅行先として多くの観光客が訪れる地域となっています。ウルルやグレートバリアリーフなどの豊かな自然や留学先としてもオーストラリアの人気は高まっています。

課題 1 右の地図の a～c にあてはまる自然地名を記入しよう。

a	山脈
b	盆地
c	砂漠



課題 2 右下の円グラフは、1961～65年と2016年のオーストラリアへ移住してきた人々の出生国別人口割合を示しています。どのような変化がみられるか、気がついたことをまとめてみよう。



課題 3 オーストラリアが、多文化主義をとるようになった理由を考えてみよう。

課題 4 オーストラリアが、アジアの国々との関係を深めようとしている理由を考えてみよう。

オセアニア州 ④

オセアニア州の まとめ

●学習のねらい●

地図帳を使って、白地図上に語句や地名を記入し、オセアニア州についてまとめよう。

オセアニアは、オーストラリア大陸、ニュージーランド、そしてさまざまな島々から成り立っています。島々が点在する地域は、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに区分されます。アメリカ合衆国の一州であるハワイもポリネシアに属します。この地域には世界中からの観光客が多数訪れます。

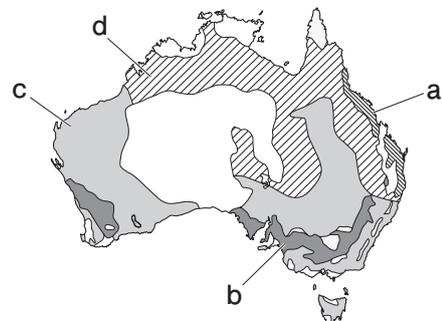
オセアニア州の大国オーストラリアにはもともと先住民が暮らしていましたが、18世紀以降、イギリスからの移民が増え、ゴールドラッシュを境に中国系の移民が増えると、一時期は白人により白豪主義政策が進みました。しかし、第

二次世界大戦以降、労働者としてアジアなどからの移民を受け入れるようになり、国の方針が多文化主義政策に変化すると先住民の地位も見直されるようになりました。貿易・観光などの面でも、それまで結びつきが強かったヨーロッパ諸国から、アメリカ合衆国やアジア諸国との結びつきが強まってきました。産業面では、農業では牛や羊の放牧、小麦・さとうきびなどの穀物栽培が盛んですが、内陸部は乾燥が著しく農業に適していない地域が広がっています。また、オーストラリアは鉄鉱石、石炭、石油などの鉱産資源が豊富な国でもあります。

課題 1 右の地図のa～dは農業地域を示しています。それぞれの地域で生産されているものを、選択肢から選んで答えよう。

a		b	
c		d	

牧羊 牧牛 さとうきび 主に小麦などの穀物



課題 2 オセアニア州は、どのような地域から成り立っているか、下の空欄にまとめてみよう。

課題 3 オーストラリアの社会は、どのように変化してきたか、次の文章の空欄に適する語句を記入してみよう。

- ・オーストラリアには、先住民の（ ）の人々が狩猟や採集をしながら暮らしていた。
- ・しかし、18世紀の終わりに、（ ）からの移民の入植で土地を追われたり、外から持ちこまれた病気に感染するなどして人口が減少した。
- ・オーストラリアでは、第二次世界大戦まで、白人以外の移民をしめ出す（ ）政策をとってきたが、1970年代以降はアジアからの移民も受け入れるようになり、現在では（ ）主義を方針としている。
- ・オーストラリアは貿易でもアメリカ合衆国やアジア各国との結びつきを強め、（ ）、中国、韓国が輸出相手国の上位を占めている。

課題 4 太平洋の島々の自然や暮らしの特徴について、教科書や地図帳から読み取れることを下にまとめよう。

